

植物園の開花やイベントの最新情報は
ツイッター、フェイスブックでチェック！

https://twitter.com/Niigata_BGarden
<https://www.facebook.com/niigata.botanical.garden/>

フォロー、いいね！をお願いします。

花と緑の教室、催し物のご案内

観賞温室第2室 企画展示(要入館料)

- 1|4(水) 2|19(日) にいがたスプリングガーデンショー 第1部「アザレア展」
- 2|22(水) 3|20(日) にいがたスプリングガーデンショー 第2部「チューリップ展」
- 3|23(木) 5|21(日) にいがたスプリングガーデンショー 第3部「シャクナゲ・ツツジ展」

イベント

3|19(日) 20^{周年}
ウェルカム・フェスタ

観賞温室入館無料デー!

一足早い花いっぱいの植物園で楽しもう!

- 子供向け各種体験教室を開催!
- ※詳しいイベントスケジュールは3月上旬に当園ホームページに掲載予定です。

観賞温室第3室1階 特別展示(要入館料)

- 2|11(土) 2|19(日) 「クリスマスローズ展」
協力:新潟県花卉出荷組合クリスマスローズ部会
- 3|4(土) 3|12(日) 「洋ラン展」
出展:越後洋らん倶楽部、新潟らんの集い

観賞温室第3室1階 作品展示(要入館料)

- 1|4(水) 1|15(日) 「第49回新潟県花いっぱいコンクール作品写真展」
出展:あしたの新潟県を創る運動協会
- 1|17(火) 2|5(日) 「友の会写真展」
出展:新潟県立植物園友の会
- 2|7(火) 2|19(日) 昔話「花咲じいさん」
出展:折り紙はまなす
- 2|22(水) 3|12(日) 「ハーブアラカルト」
出展:ジャパンハーブソサエティ新潟支部
- 3|14(火) 4|2(日) 「外山康雄野の花の水彩画展」
出展:外山康雄野の花館

花と緑の教室 要予約 開催日の1ヶ月前から電話受付

会場・集合場所/花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)

- 1|22(日) 「植物園花散歩⑨ アザレアの魅力発見」
13:30-15:00 ●定員:15名 ●参加費:500円(温室入館料込み)
●講師:倉重祐二(当園副園長)
- 1|29(日) 「自然素材を使った節分飾りをつくろう」
10:00-11:30 ●定員:16名 ●参加費:300円 ●講師:県立植物園友の会
- 2|8(水) 「植物園花散歩⑩ 冬芽の観察」
13:30-15:00 ●定員:15名 ●参加費:300円 ●講師:久原泰雅(当園職員)
- 2|12(日) 「植物学講座⑧ 水草の話」
13:30-15:00 ●定員:30名 ●参加費:300円
●講師:志賀 隆(新潟大学教育学部人文社会・教育科学系准教授)
- 3|4(土) 「自然素材を使ったフォトフレーム」
10:00-11:30 ●定員:16名 ●参加費:300円 ●講師:県立植物園友の会
- 3|8(水) 「植物園花散歩⑪ チューリップの秘密」
13:30-15:00 ●定員:15名 ●参加費:500円(温室入館料込み)
●講師:村田亜希子(当園職員)
- 3|12(日) 「植物学講座⑨ 弥彦山の植物」
13:30-15:00 ●定員:30名 ●参加費:300円 ●講師:石澤進(元新潟大学理学部教授)

花いっぱいの
冬の植物園

花の名産地新潟ならではの展示で
ひと足早い春を満喫

平成29年度植物園ボランティアスタッフ募集!

植物園の管理のお手伝いをしてくださるスタッフを募集します。植物の管理、資料整理、展示解説などの作業があります。健康で、植物に興味のある方ならどなたでもご参加いただけます。登録には説明会への出席が必要となりますので、興味のある方は出席ください。

説明会日時:平成29年3月9日(木)、12日(日)10:30から30分程度
※どちらか都合のよい日にご参加ください。

◆観賞温室開館日 温室開館時間/9:30~16:30(入館締切16:00) □ 休館日 ● 臨時閉館日

1 January							2 February							3 March						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	●	●	●	1	2	3	4	●	●	●	1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31	●	●	●	●	26	27	28	●	●	●	●	26	27	28	29	30	31	●

◆観賞温室利用案内

	個人	団体(20名以上)	回数券(5回分)	定期券(6ヶ月)	
大人	600円	480円	2,500円		●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。 ●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。 ●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。 屋外園地無料 小中学生 土・日・祝日無料
シルバー(65歳以上)	500円			1,200円	
高校生・学生	300円	300円			
小・中学生	100円	100円			

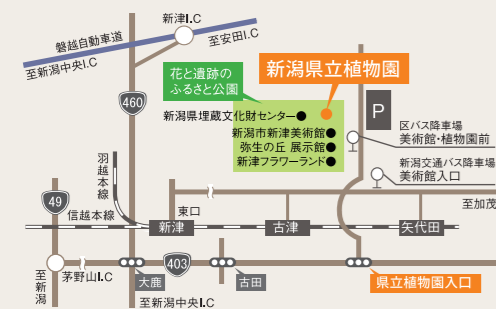
◆交通アクセス

- JR 信越線古津駅下車徒歩約25分
- バス 区バス:新潟駅東口から「新潟駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通バス:新潟駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き「新潟美術館入口」下車徒歩約10分
- 高速道路 磐越自動車道新潟I.Cから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
- 一般道路 (新潟方面から) 国道49号から茅野山I.Cを国道403号加茂/新潟方面へ

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

情報発信しています 新潟県立植物園 検索



にいがたスプリング・ガーデンショー

植物園の温室が最も華やかになるのは、実は新春から3月です。新潟県が全国一の生産量を誇り、日本を代表するコレクションを保有する当園のアザレアやシャクナゲ、また新潟県の花であるチューリップをメインフラワーに、春の花々もふんだんにつかった華やかな庭園を創出します。1年のはじまりをぜひ植物園でお過ごしください!



新潟で生まれ、優れた品種の親となった'春の夢'

第1部 1/4(水) 2/19(日)
アザレア

日本一のアザレアを有する当園のコレクションから、100品種500鉢を圧倒的なボリュームで展示します。樹齢50年以上の大株、江戸時代のイギリスのアザレアから最新品種まで、普段目にすることができない珍しいアザレアも多数展示。また、交配親となったツツジの野生種や江戸時代の日本で作出されたツツジ、栽培や品種改良の歴史も紹介します。2月11日(土・祝)、12日(日)は県内では手に入らない人気品種の特別販売もあります。

第2部 2/22(水) 3/20(月・祝)
チューリップ

一足早い春を27品種15,000本(期間中総数)の多彩なチューリップで彩ります。チューリップというと、ピンクや赤で同じような花形でと想像されるかもしれませんが、国際的には5,000以上の品種が登録されています。展示では、花卉の先が細長く伸びるユリ咲き、花卉の縁がギザギザになる一風変わったフリンジ咲き、また、ノバロット咲きといわれるオウムの羽のような花形など一見すると「これがチューリップ?」と思える品種もご紹介します。また、当園の調査にもとづいた日本への導入から日本一の生産地になるまでの歴史を紹介します。



新潟県オリジナル品種'越爛爛'



県内育成品種の'舞娘'

第3部 3/23(木) 5/21(日)
シャクナゲ・ツツジ

鉢物花木の生産がさかんな新潟県。特に西洋シャクナゲの生産は全国一で、80%以上のシェアがあります!また、平成30年には日本一の規模を誇り、貴重な品種も見られるシャクナゲ園が園内にオープン予定です。今回の展示では、豪華な西洋シャクナゲの大株や県内育成品種を紹介します。また、当園が世界に誇るツツジ属コレクションを公開します。



特別展示

クリスマスローズ展
平成29年 2/11(土・祝) 19(日)

冬の貴婦人、クリスマスローズは、うつむき加減に咲く清楚な花が人気の宿根草です。冬から早春に開花するため、県内でも各地で展示会が行われます。当園の今回の展示では、県内で育成された多様な花色や花形の品種をご紹介します。全国でも特に生産がさかんな新潟県秋葉区では、区内の花の施設(花夢里にいつ、新津フラワーランド、うららこすど、新潟県立植物園)が連携したイベントが開催されます。当園でも展示期間中にスタンプラリーを開催する他、2月11日(土・祝)、12日(日)にはクリスマスローズの苗を販売します。フラワーバレンタイン(2月11日限定)には、育て方のミニ講座、またクリスマスローズ苗を1,000円以上お求めの方先着50個にコラボ店が提供するスイーツをプレゼントします。ぜひこの機会に、園芸ファンを魅了するクリスマスローズの世界をお楽しみください。



「クリスマスローズの育て方ミニ講座」
2/11(土・祝) 11:30-13:30から30分程度
●場所:クリスマスローズ展示・販売会場
●参加費無料(別途温室入館料が必要となります)
●講師:倉重祐二(当園副園長)

Akiha クリスマスローズ展

スタンプラリー ●2/4(土)~2/26(日)
花夢里にいつ、新津フラワーランド、うららこすど、新潟県立植物園のクリスマスローズ展を巡ります。スタンプを集めて2月25日(土)、26日(日)にうららこすどで行うガラボン抽選に挑戦!
フラワーバレンタイン ●2/11(土・祝) 限定企画
クリスマスローズの鉢花1,000円以上の購入者を対象に、各会場先着50個限定でコラボ店が提供するスイーツをプレゼント。

各施設のイベント:
花夢里にいつ「クリスマスローズまつり」
2/4(土)~3/8(水)
新津フラワーランド「第16回新潟クリスマスローズ展」
2/4(土)~2/12(日)
うららこすど「うららこすどクリスマスローズ展」
2/4(土)~3/5(日)
食育・花育センター「Akihaクリスマスローズ展」
3/4(土)~3/5(日)



特別展示

洋ラン展 平成29年 3/4(土) 12(日)

今年も県内のラン愛好家のみなさんが育てた多種多様なランが勢ぞろいします。華やかで美しいだけではないランの世界、普段見ることのできない植物園ならではの珍しい種類も展示されます。この機会にぜひランの魅力をご堪能ください。期間限定のランショップも開店しますのでお楽しみに!



ウェルカムフェスタは入館料無料!

3/19(日) 20(月・祝)

日ごろのご愛顧に感謝して、両日温室入館が無料となります。温室内ではチューリップ展や、ヒスイ色の花が咲くヒスイカズラなどがご覧になれます。また、ご家族やお子様向けの体験教室も開催されます。春の訪れを感じる3月、花いっぱい温室を満喫しませんか。温室をいつもより楽しめる企画を、たくさん用意してお待ちしています!



子供向けの体験教室

熱帯ドームのバナナの葉のトンネル



NEWS
1

秋のイベント報告

10月2日(日)に秋の植物園まつり・新潟県都市緑花フェアを開催しました。観賞温室も無料開館とし、昨年のお客様にお越しいただきました。

恒例企画のオオオニバス試乗体験やバックヤードツアー、植物などを使った様々な体験教室などを行なった他、当園職員が講師となり、ミラクルフルーツの体験や園内のどんぐり観察、秋の寄せ植え実演など短時間に気軽に学べる植物ミニ講座を行いました。はじめての企画でしたが、参加者の皆さんに喜んでいただけましたので今後も開催していきたいと思います。

また、この日は新潟県主催のシャクナゲ園記念植樹式も行われました。当園の開園20周年にあたる平成30年春のオープンをめざし、日本最大級のシャクナゲ園が整備されることとなりました。式典と記念植樹には泉田前知事や地元県議会議員のほか、今回シャクナゲを寄贈いただいた長尾氏にも出席いただきました。

現在、園内ではシャクナゲ園の整備が進められています。植栽された樹高4m以上の西洋シャクナゲの大きさをぜひ近くでご覧ください。再来年のオープンをお楽しみに。

(村田亜希子)

NEWS
2

ボタン園の改修

平成16年にボタンの新品種作出と生産で有名な新潟市秋葉区の江川木楽園からボタン寄贈のお話があり、準備を進め平成17年の春に「にいがた花木園・江川一栄コレクションボタン保存園」を開園しました。

大株を寄贈していただいたため毎年5月初旬から大輪のみごとな花が咲き、多くの来園者の方々の目を楽しませてくれていましたが、数年前より部分的に枯死株が目立ち始めたことから、残った株を掘り取って移植し、空いたスペースに三年生の若い苗木を植栽しました。

今回の植栽株は20品種、400株です。ボタン園には、182品種のボタンが植栽されていましたが、新しく‘黄冠’、‘吉野川’、‘聖代’、‘ゴーギャン’など、これまでに植栽されていなかった品種も加わりました。1m幅の畝に35cm間隔で植栽しましたので、かなり込み合っているように見えますが、密植することによって成長が促進されます。来春は蕾を摘み取り、花を咲かせずに株の成長を優先させる予定です。

(田中良明)



植栽したボタンの苗木



ボタンを植える準備も完了



泉田前知事や寄贈者である長尾さんも加わって植樹

植樹後に来賓の皆さんで記念撮影



植物ミニ講座



秋の植物園まつり・新潟県都市緑花フェアでの館内の様子

NEWS
3

日本植物園協会
教育普及委員会の設立へ

植物園の重要な機能として、教育や普及の活動があります。生きた植物を系統だって多教育で育てている植物園は、実物で学べる他にない施設としての特徴を有しており、全国で教育活動が行われています。

当園も学校等の校外学習に対し、さまざまなかたちで対応しています。小中学校の調査学習や職場体験、高校生、大学生等の実習や研修を行っています。

全国の植物園が加盟する日本植物園協会では、植物園の教育施設としてのさらなる活用や情報交換を目的に、平成29年度に教育普及委員会を設立することとしました。当園も準備会の一員となっており、11月に当園を会場として今年度の会議を行いました。会議では、今年度の成果や課題、今後の予定などについて話し合い、同様の施設である動物園、水族館の教育研究会の見学を行いました。

教育普及活動の充実により植物園がよりいっそうの社会貢献を果たせるよう、議論を重ねていければと考えています。(林 寛子)



動物園水族館教育委員会でのポスター発表(11月)



インターンシップで訪れた大学生による成果発表会(10月)



小学校の遠足での押し花カードづくり(11月)

NEWS
4

企画展「工芸と植物」を振り返る

今年のはじめて工芸をテーマとした企画展を開催しました。工芸と植物は無関係のように思えますが、かつて人は自然、特に植物に寄り添って生き、その中で工芸が育まれてきた歴史があります。これら伝統的な工芸品を植物の観点から展示、解説するのが展示の眼目です。

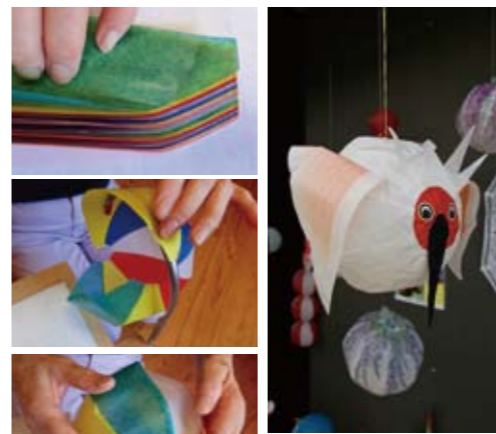
今回、最も興味深かったのは、三条燕地域の金属製品です。金属を溶かす熱源として山地の薪炭林から取れるコナラなどの薪や木炭が使われましたし、刃物の柄には、握りやすく、加工が容易な樹木が利用されています。こうしてつくられた製品は、野菜などの収穫用包丁、剪定や伐採に使われるノコギリ、斧、はさみなど農業や園芸などに欠かせない道具として使われています。また、花器や生花用のはさみなどは、植物文化にも重要な役割を果たしています。

織物や桐箆などの県内の伝統的工芸品(経産省指定)以外にも、ゼンマイの新葉の毛(ゼンマイ綿)を集めて芯にした栃尾手まり、日本唯一の一貫生産が可能な上越のパテンレース、同じく日本で唯一製作される出雲崎の紙風船などが印象的でした。

今回は、江戸時代末期の越後の地理、古跡、妓楼美人などについて記した「越後土産」(紀興之、1864年)の中から産物を選び、パネルで解説しましたが、現在の工芸品に長い歴史があるのが分かるのと同時に、何気なく使っている、普段食べられていたものの多くが失われてしまっていることに気づいた次第です。(倉重祐二)



野菜収穫用の包丁(展示協力:株式会社タダフサ)



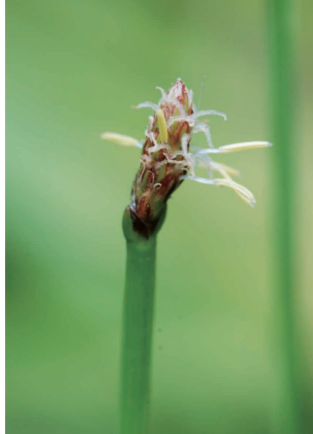
手作業でつくられる紙風船

新潟県の鳥、トキの紙風船

(展示協力:磯野紙和風船製造所)



これまで生育が見られなかった水路に突然出現したミズアオイ



佐潟のヨシ刈りによって発生した絶滅危惧種スジヌマハリイ

新潟の植物 攪乱と水草

現在、日本に自生する水草230種類中90種類が絶滅危惧種や準絶滅危惧種であり、最も減少が著しい植物の一つに挙げられます。

水草の生育と攪乱(かくらん、環境が乱されること)には密接な関係があり、減少の原因のほとんどが、攪乱が起きなくなったことだと考えられています。

攪乱には、地震や洪水などの大規模なものや、一本の木が倒れたりするといった小規模なものなど様々なものがあり、その程度や種類により、環境への影響も異なります。私たちにとってありがたいものではないことも多いですが、それによって維持される植物もあり、ミズアオ

イやオニバスなどはその代表と言えます。

これら水草は、攪乱によりできた草木が生えていない場所(裸地(らち))にいち早く侵入し繁茂します。しかし、その場所の環境が安定し始めると、草丈が高く地下茎で広がっていくようなヨシやハスなどの植物に住み家を奪われ消えていきます。それでも、たくさんのタネを残し、新たな裸地にたどり着いて芽生えるか、再度攪乱により生育適地になるまで土の中で眠りにつきます。

現在行われている佐潟でのヨシ刈りなどの「潟普請(かたぶしん)」の活動や福島潟の「ヨシ焼き(野焼き)」などは伝統的な人為的な攪乱の一つで、人と湿地との関わりを残すだけでなく、水草の維持にとっても非常に重要な活動となっています。

水草を後世まで残していくことは大変困難ですが、自然と人との共存共栄を含め、新たな道が開ければと考えています。(久原泰雄)



佐潟で行われている「潟普請」の活動

花と緑の相談コーナー 植物 Q&A

Q

新潟県の草花に指定されている「雪割草」は、なぜ「ユキワリソウ」と表記せず漢字で書くのですか。また、雪割草を育てるポイントは何ですか。

A



自生のオオミスミソウ(雪割草)

植物の和名は、正式にはカタカナで表記する必要があります。新潟県の草花であるキンポウゲ科の「ゆきわりそう」もカタカナで表記したいところですが、すでにサクラソウ科にユキワリソウの名を持つ別の植物がありますので、使用することができません。また、「ゆきわりそう」は元々オオミスミソウを指していましたが、現在はスハマソウ、ケスハマソウ、ミスミソウなどミスミソウ属全般を指すことが多くなりました。そのため、「正式な植物名ではないですよ」という意味で、漢字で「雪割草」と書いています。

新潟県には花色の変化に富んだオオミスミソウが自生していますが、保護と活用を図るため、新潟県の草花として「雪割草」が平成20年3月15日に指定されました。

雪割草を育てるポイントは、自生地の状態を理解することから始まります。雪割草は常緑の多年草で落葉樹の下に自生していますから、落葉期の秋と春にはよく日

に当たっており、冬季は雪の下で春を待ちます。初夏からは落葉樹の若葉が茂ってきますので、秋まで日陰で育つことになり、夏の暑さを葉陰でしのいでいます。

上記のような場所があれば地植えでも良いですが、思いのほか気難しく、うまく育てられません。あちこちに植えて、安定して育ってくれる場所を探すしかありません。

その点、鉢植えは他の植物との競争がありませんし、県内は自生地の気候ですから、安定して育てることができます。置き場所は屋外で、秋から春は良く日に当て、よほど深い雪でなければ雪の下で冬を越してくれます。夏は強い直射日光を避けて半日陰の場所で管理します。

鉢植えの用土は排水性と保水性を兼ね備えた用土が良く、用土配合の目安は赤玉土:鹿沼土:腐葉土=2:3:1ですが、配合は自分自身の水やりの癖などを考慮して工夫することが大切です。(園芸相談員 田中秀明)



左:韓国に自生するミスミソウ属マキシマ(Heptatica maxima) 右:鉢植えであれば様々な栽培は容易で、様々な花が楽しめる

下垂する長い花茎の先に濃赤の花を咲かせる



落ちた花と若い果実



まるでソーセージのような果実

園内ウォッチング(温室)

●「食べられないソーセージ?」ノウゼンカズラ科

ソーセージノキ(Sausage Tree)は、見た目がソーセージに似た果実をつけることから和名・英名ともにこの名前がつけました。果実はソーセージ形で長さ30~50cm、径10cm程の大きさをしている、長く下垂した柄の先にぶら下がります。

ソーセージの姿からは想像が付きませんが、花は10cm程の大きさで花弁にシワがある、濃い赤い色です。つるから出る1~2mの長い花茎についた花は夜に咲き、朝には落ちてしましますが、まれに花がついたままの状態を昼にも見ることができます。

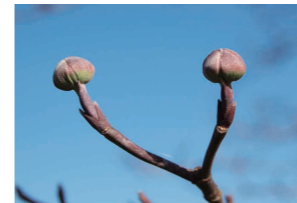
自然界では主に他の株の花粉をコウモリが受粉して結実しますが、当園には1株しかいないため、植物ホルモンであるジベレリンを使った処理をして結実させています。果実は数カ月はぶら下がっていて、ユニークな姿を長期間観賞することができます。

果実の中には、繊維質でかたい果肉とたくさんの種子が入っていて、食用には適しませんが、原産地のアフリカでは薬用や境界木などに利用されます。実だけではなく花も独特な雰囲気があるので、来園した際は注目してほしい植物です。(稲餅智美)

園内ウォッチング(園地)



オニグルミ



ハナミズキ

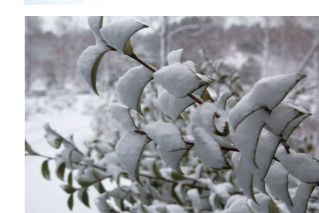
●植物園の冬

芽の形、葉の跡(葉痕)は植物によってちがい、見分ける手がかりとなります。2月8日(水)には冬芽の観察をテーマとした植物園花散歩も行われますので、ぜひご参加ください。

●雪景色:新潟の冬はなんといっても雪。雪化粧の植物園、木々につもる雪も美しいものです。

●動物の足跡:ウサギやタヌキ、鳥などの足跡が見られます。

●冬鳥:池を訪れるのはカモ類が多くほとんどがマガモとコガモですが、オナガガモやヒドリガモ、キンクロハジロ、ハクチョウが迷いこむこともあります。(林 寛子)



カンツバキの葉につもる雪



コガモ(雄)



ノウサギの行き来の足跡(ツツジ園)